

👂 耳でも聞ける



議会だより

2026 No. 217

令和8年4月22日発行
岩手県紫波町議会



令和8年3月定例会 新町長に問う!

主な内容

令和8年度予算

やりくり続々しお家の家計 2

代表質問、一般質問

14議員が町政を問う 14

表紙の写真
未来にはばたく子どもたちへ P24に関連記事

しわ家の家計

令和8年度 一般会計予算



表現してみました **収入** **支出**

前年度比 マイナス6億2513万円
3.6%減

165億 471万円

医療/生活費

民生費 34.5%
56.9億円
前年比 8.8%増

家財の修理・ 改修

土木費 8.7%
14.3億円
前年比 12.6%減

公からの補助金

譲与税/交付金 8%
13.2億円
前年比 11.7%増

学校/教育費

教育費 8.4%
13.8億円
前年比 25.3%減

健康管理や 掃除用品など

衛生費 9.7%
15.9億円
前年比 0.1%増

ガソリン暫定税率廃止
小学校給食費無償化
環境性能割廃止等の補填

親の援助

地方交付税 28.7%
47.3億円
前年比 6.0%増

タブレット更新
などあるが赤石小
増築が完成で減

菜園・畑の 維持管理

農林水産業 7.6%
12.5億円
前年比 0.4%増

物価高騰対応の
交付税が増

投資/子へ援助など

総務費 18.0%
29.7億円
前年比 13.2%減

使い方を限定 した親の援助

国/県支出金 26.4%
43.6億円
前年比 1.9%増

大型工事減による

3月会議のあらまし

町長より提出された予算11・議決6・条例8・報告3・人事2などの合計35案件について審議した結果、全て原案のとおり可決・合意をしました。質疑の上、賛否の分かれた案件は、予算1件、条例2件でしたが、採決の結果いずれも賛成多数で可決となりました。

代表質問は3会派、一般質問は11議員が町政について考えを質しました。

予算の特徴

令和8年度一般会計予算は、歳入の構成比で自主財源が34・2%、依存財源が65・8%で、前年より自主財源比率が7・8ポイント減少しました。

ガソリン暫定税率減収補填、物価高騰対応、給食無償化補填などの国・県支出金が増えたことから依存財源の割合が高くなりました。町税は、37億円ほどと見込まれていますが、町債と繰入金は一昨年並みに落ち着きました。

前年度比マイナスの予算となりましたが、厳しい財政状況は続きます。可決した議会も責任をもって町政の運営を監視・評価していきます。

所信表明



かまだ せんいち 鎌田千市 町長

昨年、町政70周年を迎え、令和8年度は次なる時代へと歩みを進める第一歩の年です。困難や変化を恐れるのではなく、自らの意思と行動によって未来への道を切り開くことが、私たち一人一人に求められています。新たな挑戦に果敢に踏み出しながら、町政が実り多い飛躍の年となるよう、全力を尽くします。

大切にしたい町の魅力は、「ここに暮らす人」です。全ての世代がそれぞれの役割を持ち、輝きながら安心して暮らし続けることができる「希望のまち紫波」を実現するため、対話を重ね、町民の持つ「地域力」を原動力として共に町をつくり上げていきます。

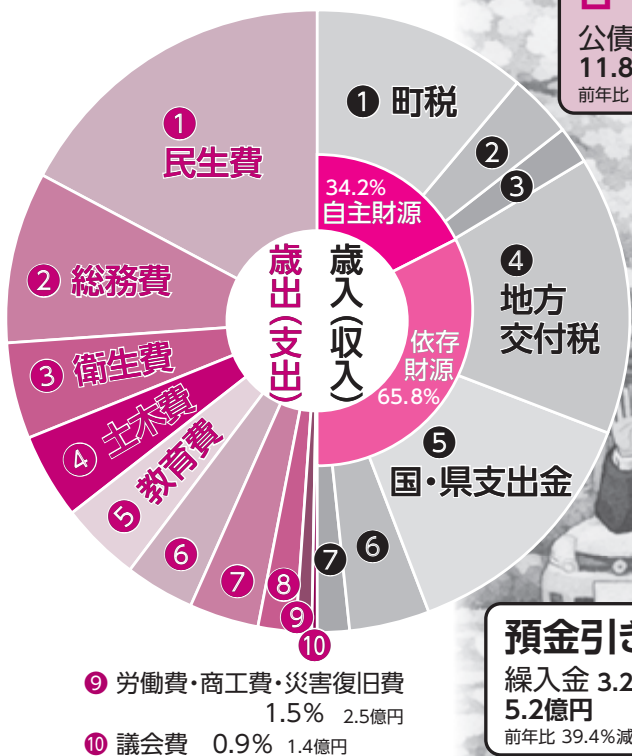


定例会
3月会議

2月27日~3月27日

今年もやりくり続く

令和8年度の一般会計予算を家計の項目に当てはめて



ローンの返済
 公債費 7.2%
 11.8億円
 前年比 0.6%減

社会福祉費増加
 ・後期高齢者医療費
 ・障がい者支援など

パパの給料
 町税 22.4%
 37億円
 前年比 1.8%増

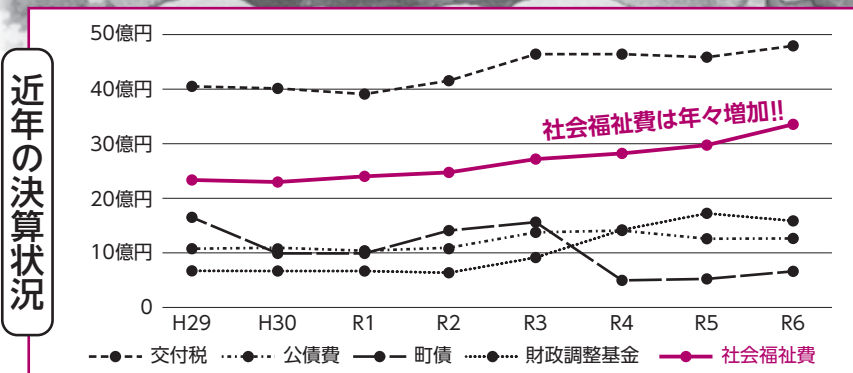
ママのやりくり
 分担金/使用料/諸収入
 財産収入/寄付金など
 13.8億円 6.4%
 前年比 12.5%減

預金引き出し
 繰入金 3.2%
 5.2億円
 前年比 39.4%減

ローン借入
 町債 2.7%
 4.3億円
 前年比 59.3%減

防災への備え
 消防費 3.5%
 5.7億円
 前年比 6.0%減

項目	適要
民生費	高齢者福祉や障害者福祉、保育所の運営など社会保障にかかる経費
総務費	情報通信基盤などの維持管理、行政事務などにかかる経費
衛生費	健康増進・疾病予防・環境保全などの業務に係る経費
土木費	道路・公園河川などの建設や維持管理にかかる経費
農林水産業費	農林・畜産業の振興などにかかる経費
公債費	事業のために国などから借りたお金の元利償還金
教育費	小・中学校の運営や社会教育・体育事業などにかかる経費
消防費	防災や災害時の活動などにかかる経費
商工費	商工業や観光の振興に充てる経費



注目の審議

会計名	令和8年度予算	令和7年度予算	議決内容
一般会計	165億 470万円	171億2984万円	可 決
国民健康保険事業特別会計	32億 429万円	32億9662万円	可 決
後期高齢者医療特別会計	5億1278万円	4億3494万円	可 決
介護保険事業特別会計	36億9708万円	36億9475万円	可 決
介護予防サービス計画事業特別会計	726万円	722万円	可 決
再生可能エネルギー事業特別会計	4億3545万円	3億8039万円	可 決
下水道事業			
会計名	令和8年度予算	令和7年度予算	議決内容
収益的支出	13億2490万円	13億 427万円	可 決
資本的支出	9億5335万円	10億2866万円	



予算配分は適切か?! 新町長に問う!!

一般会計 予算総括

問 国・県・団体などからの補助を見込んだとしても事業の肥大化により一般財政を圧迫することは本末転倒。身の丈に合った規模の予算編成か。

答 やらなければならない事業は行政としての役割でもある。インフラ整備もしていかなければならない。知恵を絞っての結果である。

問 8年度を含めた数年間はこれまでにない規模の財政負担が見込まれるが、耐性の確保は。

答 財政が厳しいのはそのとおりだが、見通しを立てながら健全性を保つ。

反対

むらかみ
村上 みさと 議員

財政負担が見込まれる状況で大きな事業は真に町民の望むものなのか。将来世代への負担が増す懸念もある。優先すべき事業とのバランスを欠くため反対。

おいかわ
及川 ひとみ 議員

効率・効果で選定すると人口減少が進む地域の要望はかなわなくなる。審議の中で、そのような考え方が明確になったと感じたため反対。

賛成

ほうじょう さとし
北條 聡 議員

予算総額は前年比で約6億円減少した。予算配分はさまざまな視点や角度から検討してきたものと考え賛成。

すず き ひろし
鈴木 博 議員

不確実な時代においても地域経済と住民生活を守り、前進させるための「攻め」と「守り」を兼ね備えた予算であると評価し賛成。

討論

採決

反対3

村上

及川

細川

賛成14

吉田

鈴木

佐藤

橋浦

高橋

浅沼

北條

阿部

佐々木

阿部

熊谷

細川

藤原

根水

武田平八議員は、議長のため裁決には加わっていません。

注目の付帯意見

人口減少を見据え、将来世代への負担を過度に先送りすることのないよう、中長期的な財政見通しに基づく計画的な財政運営を徹底するとともに、基金の適切な管理に努められたい。

議会の視点

町債はインフラ整備やノウルプロジェクトに係る資金確保が必要です。また、8年度を含めた数年間は給食センター整備などが予定されています。さらに、大幅な町税増が見込めない中で扶助費や人件費が肥大化していく傾向があります。そのため、議会では中長期的な財政見通しに基づく計画的な財政運営、基金残高の推移を注視していく必要があります。

令和8年度一般会計予算、5つの特別会計と下水道事業会計は審議の結果、全て可決しました。





議会の意見を付して可決



注目の事業へ

計 画的な財政運営の徹底を!!

国民保険事業特別会計・後期高齢者医療特別会計

反対

ほそかわ けいいち 議員
細川 恵一 議員

子ども子育て支援金制度による国民健康保険税・後期高齢者医療保険料の上乗せが町民の暮らしを圧迫する。国の制度をそのまま受け入れるのではなく負担軽減を求めるべき。

賛成

すずき ひろし 議員
鈴木 博 議員

国民健康保険は国民皆保険制度の相互扶助の根幹である。後期高齢者医療保険は世代間の公平性と財政の安定化を図り、社会全体で支える仕組みであり賛成。

討
論

国保 採決 反対4高橋 及川 細川 藤原 賛成13吉田 村上 鈴木 佐藤 橋浦 浅沼 北條 阿部秀 佐々木 阿部美 熊谷 細川久 根水
後期 採決 反対3高橋 及川 細川 賛成14吉田 村上 鈴木 佐藤 橋浦 浅沼 北條 阿部秀 佐々木 阿部美 熊谷 細川久 藤原 根水

再生可能エネルギー事業特別会計

反対

たかはし けいこ 議員
高橋 敬子 議員

歳入計画は過大、歳出コストは過少に見積もられている。一般会計からの繰り入れ依存や将来的な財政負担の増大を招く恐れがあり反対。

賛成

ささき じゅんこ 議員
佐々木 純子 議員

循環型まちづくりの軸になる事業。十分に審議された。今後も事業の進捗状況を検証していくことから賛成。

討
論

採決 反対5村上 高橋 及川 細川 根水 賛成12吉田 鈴木 佐藤 橋浦 浅沼 北條 阿部秀 佐々木 阿部美 熊谷 細川久 藤原

【令和8年度会計 予算付帯意見要約】 ※執行にあたり留意事項を示すもの。

一般会計

1. 新規就農者 ネットワーク構築と相談体制の充実を。
2. 鳥獣被害対策 専門員と鳥獣被害対策実施隊との連携・対策強化を。
3. 財政運営 中長期的な見通しと計画的な財政運営の徹底を。
4. 紫波中央駅東口整備 住民理解を図りながら事業執行を。
5. 誰一人取り残されない学びの保障 教育支援の充実を。

6. 乳児等通園支援事業 子どもの安全を第一に。検証を積み重ねながら実施を。

国民健康保険事業特別会計・後期高齢者医療特別会計

1. 制度改正時には町民への周知徹底を。

介護保険事業特別会計

1. 介護予防支援の充実を。

下水道事業会計

1. 安全・安心な住環境の確保を。



予算決算常任委員会 令和8年度予算 審議内容

お金の使い方をチェック 共に創る「希望のまち紫波」をめざして



予算審議とは
お金の使い道が住民のためになっているか、必要性や効果はあるのか、無駄はなかなど審査をします。

一般会計

ふるさと納税

問 寄付額を増やすための取り組みは。目標額の設定は適正か。

答 町の主力品は農産品であり、生産者と協力して返礼品の開発や工夫により町の魅力が寄付者に伝わるよう取り組む。目標額は、各返礼品ごとに伸び率や供給状況を踏まえて設定した。



紫波町には魅力がたくさん！

紫波中央駅周辺地区整備

問 整備内容と供用開始までのスケジュールは。

答 JRと連携して、紫波中央駅東口の通路と広場の整備を推進する。駅東側からの回遊性の向上とにぎわいの創出に向け、令和9年度上半期の供用開始を目指す。



紫波中央駅東側 整備地区周辺

学校給食

問 町が負担する費用、地場産食材の活用の見通しは。

答 物価高騰により学校給食費の改定を8年度に行う。小学校は国・県の交付金を見込み、食材費の不足分を町が補填し、保護者負担を無償化する予定。中学校は1食当たり330円から395円に改定するが、引き上げ相当額は町が補填する方針。地場産食材の使用は生産農家と協議を継続していく。



給食の質を確保しつつ負担は軽減



新規就農支援事業

問 年齢要件は。事業の継続性はあるか。

答 新規就農者を

町の独自で支援する。支援期間は24カ月を予定。8年度は1事例を対象に試し、事業の有効性や継続性を注視していく。



農業の担い手確保は喫緊の課題

農業者育成学校設置検討事業

問 どのような検討を行うのか。

答 農業や食に関心がある人を幅広く受け入れ、事業化する前の経験の場にした。学んだ人が町に定着することで、地域づくりや農業者・食の匠などの技術継承にもつながる。9、10年度の開校を目指し、地域資源の調査を行う。



鳥獣被害対策専門員

問 新たに配置する専門員の業務内容と、期待される効果は。

答 被害情報の調査、被害防止に関する指導や助言、普及と啓発、有害鳥獣の捕獲支援を行う。鳥獣被害対策に特化した専門員として、猟友会など関係各所と連携して被害防止を推進する。



シカによる被害も増えてます

後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療事業

問 事業費の増額理由は。被保険者の負担は増えるのか。

答 子ども・子育て支援金が保険料に上乗せされるため、システム改修を行う。8年度は保険料の見直しが行われるため、岩手県後期高齢者広域連合で知らせているが、町でも理解が得られるようにしていく。

介護保険事業特別会計

介護予防

問 要介護状態予防事業の内容と委託料増額の理由は。

答 元気アップ教室とアクティブシニアトレーニングの2つの教室を実施することで健康づくりや介護予防を行う。開催回数や利用者数の増加を見込み、前年比1割ほど増額。



アクティブに健康づくり！

下水道事業会計

汚水管路維持管理

問 国土交通省は、老朽化に伴う道路陥没事故を防ぐため、下水道管の点検強化をしているが町の対応は。

答 汚水管路は町に270kmあるが主に小口径であり、他県の陥没事故のような大口径の管路ではない。汚水が漏れる可能性のある管路は重点的に点検しており、8年度も継続して実施する。



定例会
3月会議

ピックアップ

条例審議

紫波町再生可能エネルギー事業基金条例 議案第6号

再生可能エネルギー事業特別会計における資金を効果的に運用するため基金を設置しようとするもの。



再エネ事業のための安定財源確保

反対

たかはし けいこ
高橋 敬子 議員

基金の積み立てや運用の具体的な見通しが不透明、将来的に町の財政負担となる可能性がある。制度設計が十分に成熟しているとは言えず、現時点での制定には反対。

賛成

すずき ひろし
鈴木 博 議員

一般会計と分離することで、キャッシュの入りと出が明確な事業運営が可能になる。また、一般会計の歳計現金に振り替えて町の資金繰りの一助になることから賛成。

討論

問 基金設置の必要性は。
答 発電事業で収益も発生する事業なので、運用するといふ点で一般会計とは別の基金が必要。災害の緊急対応に要する経費の財源にも充てる。

採決

反対1

賛成16

紫波町個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例 議案第9号

個人番号及び特定個人情報を利用する事務の範囲を改めようとするもの。

緊急通報装置貸出の終了に伴い条例から削除



反対

ほそかわ けいいち
細川 恵一 議員

個人情報をいかに厳格に守るかが重要。変更する具体的な必要性や町民にとっての明確なメリットがない。個人番号の利用範囲を広げることが、結果として個人情報の集中管理を強める方向につながるため反対。

問 在宅高齢者に対する緊急通報装置の貸出に関する事務を削るとのこと。理由は。
答 スマートフォンで代用できるため、機器の返却が行われた。事業終了となり、条例からも削除することになったもの。

採決

反対2

賛成15

紫波町行政手続き等における情報通信の技術の利用に関する条例の一部を改正する条例 議案第8号

紫波町職員の勤務時間、休日および休暇に関する条例の一部を改正する条例 議案第10号

紫波町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 議案第11号

紫波町職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例 議案第12号

全員賛成



計画や条例などの審議では、必要性や妥当性、町民への影響を多角的に検証し、議会として責任ある判断を行うため質疑や議論を行います。



補正予算審議

ピックアップ

可決
3/17

令和7年度一般会計補正予算(第8号) 議案第23号

反対

おいかわ 及川 ひとみ 議員

おおむね賛成の立場だが、この補正予算はそのまま令和8年度の予算に繋がる。ノウルエリアの周辺整備は、交付金はあるが一般財源も支出する。緊急性や国際状況を見ても一度考え直すことが必要ではないか。

令和7年度 総額200億超となる

歳入歳出それぞれ16億4013万円を追加し、総額200億1404万円とするもの。

採決

反対3



賛成14



学校施設改修工事費 2400万円



西の杜小学校の トイレがキレイに

問 改修工事の内容は。
答 平成14年の建設時から約25年経過。現在の和式便器20基を洋式26基に改修する。他にも給排水管の交換、床改修、照明のLED化を行う予定。小便器は使用状況が比較的よいため、改修しない。

紫波中央駅東口整備負担金 4577万円

全額を令和8年度へ繰越して実施するもの



東口整備がスタート

ノウルエリア駐車場整備 4388万円 道路改良舗装工事費 1002万円 機械器具費 582万円

問 駐車場整備の場所と予定台数は。
答 旧長岡児童館を解体して、駐車場を造成する。台数は、現時点で69台を見込んでいる。

問 道路改良する場所と目的は。
答 施設に隣接する部分の整備を進めるため、農村公園の駐車場通路を拡幅工事する。

問 機械器具は何を購入するのか。目的は。
答 衛生基準を満たしたキッチンを作るための厨房機器の購入。漬物加工所などとしても使えるシェアキッチンにし、ビジネス創出につなげる。



ノウルエリアの 整備着々と

ノウルエリアイメージ



計画審議

採決：全員賛成



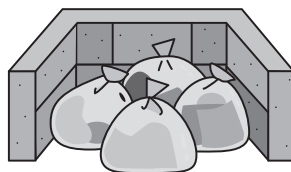
紫波町環境・循環基本計画の変更に関し
議決を求めることについて 議案第13号

紫波町一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の変更に関し
議決を求めることについて 議案第14号

問 ごみ分別説明会の参加人数目標が10倍となっている。達成に向けての取り組みは。

答 開催数を増やすことで、参加者数を増やすよう力を入れていきたい。

問 環境負荷を減らす具体的な取り組みは。



問 ごみ減量化や資源化に向けて、住民の役割が大きい計画だが、周知は。

答 関心を持ってもらえるような周知方法を工夫したい。

ごみ発生量の実績

		R3	R4	R5	R6
家庭系ごみ排出量	(t/年)	6,720	6,471	6,349	6,277
	燃やせるごみ (t/年)	4,640	4,563	4,537	4,522
	資源ごみ (t/年)	1,446	1,386	1,293	1,227
	生ごみ (t/年)	645	598	559	519
	プラスチック製容器包装 (t/年)	135	141	140	142
	紙製容器包装 (t/年)	36	37	36	36
	古紙・ペットボトル (t/年)	220	209	187	175
	段ボール・古着 (t/年)	108	103	90	86
	空カン・空ビン (t/年)	302	298	281	269
	大形ごみ・不燃ごみ (t/年)	609	511	504	514
引取ごみ (t/年)	24	3	7	6	
集団回収量	(t/年)	537	462	463	406
	紙類 (t/年)	481	412	411	358
	びん類 (t/年)	8	7	8	7
	金属類 (t/年)	39	34	36	33
	その他 (t/年)	9	9	8	8
1人1日当たりゴミ発生量(g/人・日)		600	574	565	560

答 資源回収を進めてリサイクル率を上げ、環境負荷の低減につなげたい。

問 町内一斉清掃の参加者目標は達成可能か。

答 周知を図り、小学生の参加を増やしていく。



特別会計審議

採決：全員賛成

令和7年度紫波町再生可能エネルギー事業特別会計補正予算(第2号) 議案第26号

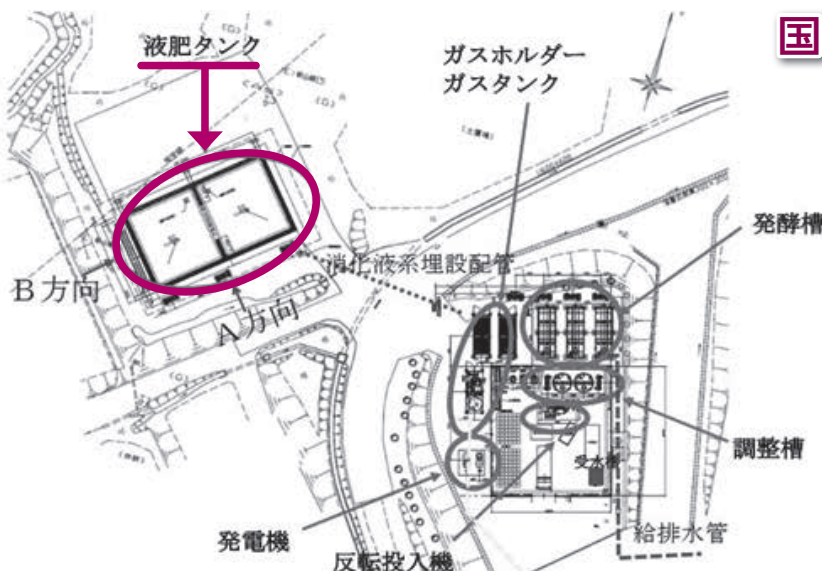
歳入歳出それぞれ397万円を減額し、総額3億7779万円とするもの。



国庫支出金が増え

1600万円の

町債を減額



問 国庫補助金の地域脱炭素移行再エネ推進交付金が増額した理由は。

答 環境省と協議した結果、当初補助の対象外と考えていた液肥タンクがメタン発酵バイオガス発電の設備であると認められ、1193万円増額されたもの。



指定管理者の指定審議

採決：議員間討議を経て全員賛成



指定管理者の指定に関し議決を求めることについて 議案第19号

紫波町旧紫波郡役所文化交流施設の管理を行わせる指定管理者を指定しようとするもの。

施設名：紫波町旧紫波郡役所文化交流施設

指定期間：令和8年4月1日から令和11年3月1日まで

指定管理者：株式会社 くらしすた不動産 代表取締役 ほし ようじ 星 洋治

歴史を体感できる交流施設の運営が始まります。

- ・コワーキングスペース貸出
- ・カフェ営業予定
- ・自主事業：マルシェイベント
地域活動発表会など



改修工事が完成し、OPENを待つばかりの旧郡役所

問 修繕責任の線引きはどうするの？

答 おおむね修繕費の中で20万円以上の場合には町が行い、それ未満は指定管理者が行うことで協議を進めている。日常的な軽微な修繕も指定管理者が行うものと認識。



コワーキングスペースとはさまざまな人が同じ空間を共有し、仕事や作業、交流を行うスペースのこと。

問 成果指標をどのように設定するの？

答 活用されることが一番の目的。民間事業者のスピード感や、創意工夫のある柔軟な運営が行われることを目指しての指定管理である。

問 町からは指定管理料を支払わず、指定管理者から年額120万円の納付を受けるという内容、この金額の積算根拠は？

答 活用提案で、周辺の家賃相場、地価の算定により月10万円の賃料が示されたことが背景にあり、選考委員会でも妥当と認められたもの。

問 これまで指定管理料を支払わない形の事業はあったか？

答 指定管理料を払わないという形は、記憶では町として初めて。総務省の納付金制度にのっとり、制度調査を行う。

問 文化財であることを念頭に置き、使いやすい施設としての町の考えは？

答 県指定文化財だが、一般町民が入れる状況ではなかった。今般の改修工事で開館時間内は1階部分を自由に出入りできる。外観だけでなく、室内を見ることが歴史を感じながら利用できることが今事業の最大の効果と考えている。

指定管理とは

民間企業やNPO法人などに公の施設の管理を委ねる制度です。管理運営団体には民間ノウハウで経費削減や業務の効率化を行うなどの裁量権が与えられ、住民サービスの向上や行政コストの削減につながります。



副町長の同意

人事

副町長に
高橋 堅 氏が決定

高橋 堅 さん (古館)

高橋氏は昭和58年に役場に入庁し、企画課長、企画総務部長、参与などを歴任。豊富な行政経験と実績、そして高い見識を踏まえ、今後の町政の円滑な運営と更なる発展のため、令和8年4月1日より副町長に選任することに同意しました。

人権擁護委員の選定

人事

藤尾 智子 さん (平沢)

法務大臣が委嘱する人権擁護委員の候補者の推薦について、藤尾智子さんを適任と決定しました。

人権擁護委員は法務局職員とともに、人権侵害事件の調査処理、人権相談、人権啓発活動などを行います。

定例会

1月第2回会議

1月22日

全て原案通り可決

七久保跨線橋の 本体工事費を減額

全員賛成



東北本線紫波中央・古館間七久保跨線橋の耐震補修工事委託に関する変更協定の締結に関し議決を求めることについて 議案第1号

協定締結 審議

可決

協定の相手方 東日本旅客鉄道株式会社
減額された額 4,573万円

問 変更を含む工事内容と減額理由は。

答 主な工事は保守工事、橋を当初の性能に戻すこと。加えて耐震補強のため、中央橋脚に強化炭素繊維を巻く工事などを施した。変更としては規格適合作業が新たに発生し増額したが、全体数量などの見直しによりトータルでは減額となった。

問 減額した部分は今後工事が必要か。

答 当初予定の工事を全て完了した上で金額の精査を行ったもの。

契約審議

町立赤石小学校校舎増築業務の変更請負契約の締結に関し議決を求めることについて 議案第2号

可決

物価高騰により 校舎増築費を増額

全員賛成

変更の要因は、受注者から請負契約締結日と比較し、物価水準などに変動が生じ、施工費の変更請求があったため。

対象経費は、契約締結日から12カ月経過した令和7年9月20日を基準日とし、この時点で既に施工済みの部分を除いた工種にかかる材料費と労務費を物価指数に基づいて算出した。

問 スライド条項に基づく変更請求の受理だが、契約内容は。

答 発注者または受注者は、業務委託契約締結の日から10カ月を経過した後に、日本国内における賃金水準または物価水準の変動により、施工費が不相当となったと認めたとの、相手方に対して、施工費の変更を請求できるというもの。

スライド条項とは

契約締結後に賃金や資材価格が著しく変動した場合、請負代金額を変更できる規定

請負者 橘建設(株)・(株)トモオカ特定建設工事共同企業体
増額された額 607万円 変更後の金額 7億994万円



矢巾町議会×紫波町議会

紫波郡町議会議長会 議員研修

これから求められる 地方議会と議員の存在意義

令和8年2月3日
場所：矢巾町公民館

紫波町議会ではSOUNDカード™を使用し、議会モニター意見交換会や町民と議会の意見交換会を令和7年度に行ってきました。同じく矢巾町議会でもSOUNDカード™を使用し、議員定数や報酬の見直しについて町民と議員が直接対話する取り組みが行われています。

両町議会で取り入れているSOUNDカード™を紫波郡町議会議長会の議員研修の対話ツールとして活用し、青森大学の佐藤 淳教授を講師に「これから求められる地方議会と議員の存在意義」について考えました。

住民の福祉向上を実現するためにはどうすれば良いのか、地方議会と議員の存在意義などについて、両町議会議員がテーブルを囲

み、考えを共有しました。議員それぞれが考えた、これから求められる議会と議員の姿を表現できるように、研修内容を生かしていきます。



対話から生まれる気づきを共有



SOUNDカード™
話し合いを活性化させ、目的達成を支援するツールです。

議会活動報告

1月		2月		3月	
議会本会議	2回	議会運営委員会	1回	議会運営委員会	2回
議会運営委員会	2回	議会全員協議会	1回	議会全員協議会	1回
議会全員協議会	2回	予算決算常任委員会	2回	議会本会議	11回
町づくり常任委員会	2回	広報広聴常任委員会	1回	予算決算常任委員会	8回
広報広聴常任委員会	2回	町づくり常任委員会	1回	条例審査特別委員会	1回
		人口減少調査特別委員会	1回	議案審査特別委員会	1回
		公民連携調査特別委員会	1回	広報広聴常任委員会	1回
		政務調査会	1回	公民連携調査特別委員会	1回
		議員研修	1回		

令和8年度予算 3月会議 3月/1月会議 活動報告 代表質問 一般質問 特集 まちの声

代表質問

会派代表3人

令和8年度の 施政方針を 問う

代表質問とは…町長や教育委員会の施策方針に対して、政策や政治姿勢を質疑するもの。会派の総意として論戦を挑む重要な機会です。

会派は、政策を中心に考えの同じ議員で構成しており、2人以上が属する会派が代表質問をすることができます。
※1人の持ち時間45分、質問回数は3回まで

質問者(登壇順)	質問事項(通告順)
新 政 会 細 川 久	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所信表明における町政方針 ○ 事業の見直しと自主財源の確保 ○ 給食費無償化 ○ 中学校部活動の地域展開
しわ共生の会 根 水 康 博	<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニティ・福祉 ○ 食と農 ○ なりわい、暮らし ○ インフラ、防災 ○ 健全な財政運営 ○ 対話と合意形成 ○ 子ども、子育て
日本共産党紫波町議団 細 川 恵 一	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町政への具体化と新たな挑戦 ○ 食と農 ○ 高齢者施策

給食費無償化、質は大丈夫か!



新 政 会
ほそかわ ひさし
細 川 久 議員



議員の代表質問・答弁の動画はQRコードから

質の保障、予算の見通しは

【答】 大きな変動なくば当面は十分

学校給食

問 公立小学校の給食費の無償化が、令和8年4月から始まる。今後の給食費予算の見通しはどうか。また、給食の質を十分に確保できるのか。

教育長 8年度に給食費は改定となる。食料品の高騰に町内小学校は国の交付金と町で補填し無償となる。中学校は、引き上げ分を町が補填するため、保護者負担は変わらない。

新 学 校 給 食 セ ン ターが稼働すれば自前炊飯のため、一定の経費削減が期待できる。食材価格が大きく変動しない限り、さらなる学校給

食費の引き上げを行わずとも、当面は十分な給食の質を確保できると考える。

問 中学校部活動に教員が関わっている実態をつかんでいるか。また、部活動が休日の地域展開は教職員の働き方改革の一助になれるか。

教育長 教職員は、平日の指導に加え、休日の大会引率や練習指導に従事しており、勤務時間外が生じている。休日の活動が地域主体になることで、教職員の休日業務の縮小が期待される。



おいしい給食で大きくなあれ



生きがいを感じる
まちづくりであればいいね



しわ共生の会
ねみずやすひろ
根水康博 議員



議員の代表質問
・答弁の動画は
QRコードから

地域力

住民の力をつくる取り組みとは

答 地域が自ら踏み出すための支援

問 町長は、一人一人の暮らしに寄り添ったまちづくりには、地域住民の力が不可欠と述べているが、その取り組みの考えは。

町長 「この地域で暮らし続けたい」「地域の風景を未来に残したい」という町民の意思こそが、町の地域力の源泉と考える。町民の主体的な思いを形にするため、学びの場づくりや対話の機会を作り、相談対応や事例紹介、専門人材の派遣など支援を行う。

問 農地の大規模化を進める考えだが、困難な地区もある。地域間の条件差を捉えているか。また、フルーツの里の発

展をどう進めるのか。
町長 農地の大規模化は重要な手段であるが、困難な土地もある。交付金の運用と各地区の協議の場に必要な情報提供などで支援していく。



佐比内を盛り上げる「藍プロジェクト」

新たな挑戦とは

答 これまでの在り方そのものを変革

問 町長は、所信表明で「困難や変化を恐れるのではなく、自らの意思と行動によって未来への道を切り開くことが求められている」「新たな挑戦に果敢に踏み出し、飛躍の年となるよう尽くす」と述べた。困難とは、また、新たな挑戦と重点になるものは何か。

町長 想定する困難は、人口減少、公共施設やインフラの老朽化に伴う財政負担、物価高騰など解決しがたい大きな壁を指している。単に事業を積み上げるのではなく、これまでの在り方そのものを変革する挑戦を重点に据えていく。

町民が安心できる
町政を望みます



日本共産党紫波町議団
ほそかわけいいち
細川恵一 議員



議員の代表質問
・答弁の動画は
QRコードから

問 町長は、稼げる農業の実現を目指し、若者や移住者、新規就農者を育成支援する「食と農の育成学校」の設立を進める考えだが、具体像は。

町長 JAいわて中央や農業指導士や食の匠など地域にある知恵を学びの場に活用する。農地の確保や住居、地域コミュニティへの橋渡しまで一体的に行い、若者や移住者が農業に参入できる体制をつくる。



お手伝い、楽しんでます



11議員が 一般質問



橋浦 栄一
● DX推進
● 教職員 の 状況



佐々木 純子
● 全ての世代の「暮らし心地の良さ」



藤原 恵子
● 企業誘致・立地奨励
● 防災庁設置に伴う町の取り組み



佐藤 光夫
● 都市計画道路
● 除雪作業



阿部 美佳子
● 地域づくり
● 副町長選任の方針



高橋 敬子
● 考える力を育てる教育
● インフラと町の将来像



及川 ひとみ
● 犯罪被害者等支援
● 公民館整備
● ごみ処理



熊谷 育子
● ジェンダーギャップ解消
● 消防団の組織体制確保



鈴木 博
● 農業支援



北條 聡
● 防災訓練の実施結果
● メタン発酵バイオガス発電
● 財政の見直し



村上 みさと
● スポーツ交流施設の使用
● ごみ処理広域化

音声版はページ下のQRコードから

一般質問とは
議員の視点から町の行政全般に対し質問し、政策的な議論をする場です。
3月会議の傍聴者は延べ22人でした。お越しいただきありがとうございます。

「考える力」を育てる教育 考える力を育成するには

答 主体的な学びを推進する

判断・選択の積み重ねで
現在があります



たかはし けいこ
高橋 敬子 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

問 町における「考える力(思考力・判断力・表現力)」を育む教育について、教育委員会はどのように位置付けているのか。

答 長 学習指導要領では、「教育」「生きる力」を育むために、子どもたちに育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱としており、全ての教科・科目の目標や内容もこの3つの柱で整理されている。「考える力」として、「思考力・判断力・表現力」は「生きる力」の中核をなすものと捉えている。町で進めている小中一

貫教育の基本方針においても、「他者との関わりが必要となる資質・能力の向上」を目標の一つとして掲げ、主体的な探究や対話を通じた「思考力・判断力・表現力」の育成に努めている。9年間の系統性と連続性を踏まえた教育活動により、児童生徒の「生きる力」の育成につなげていく。



総合学習の様子

このほかの質問

人口減少時代のインフラと自治体の将来像



戻りたいふるさとを残しましょう



あべみかこ 阿部美佳子 議員



議員の一般質問・答弁の動画はQRコードから

地域づくり 持続可能な地域づくりは

答 地域運営組織形成へ支援を行う

問 集落の維持、活性化のために地域運営組織による地域づくりや、集落支援員が設置されているが、活動状況と成果と課題は。

町長 令和3年度に地域コミュニティの取り組みを方向性を地域づくり指針としてまとめた。地域課題の解決に向けた取り組みを実践する地域運営組織の形成に向け支援している。集落支援員は、地域づくりを主な業務として地域の内外にさまざまなつながりをつくり着実に地域づくりを進めている。課題として、住民が担うべき地域内調整などの依存があること。

問 住民の主体的な活動について、具体的な支援策は。

町長 地域づくりは住民主体で行い、町は伴走支援をする。

問 地域づくりは人づくりと言われる。地域との関わりを深めるコミュニティスクールの有効性は。

町長 コミュニティスクールとは、学校運営協議会を設置した学校である。子どもたちが地域社会との関わりを実感し、自ら地域の一員として社会に参画し、将来の地域社会を支える人材育成になると考える。



住民主体で話し合いをしています

このほかの質問

副町長選任の方針と時期

都市計画道路 未来につながる安全な道を

古館にも安心安全な道を!



さとうみつお 佐藤光夫 議員



議員の一般質問・答弁の動画はQRコードから

答 検討が必要。周辺道の対策は継続

問 北日詰朝日田線と県道古館停車場線を接続する都市計画道路や構想道路は、北日詰朝日田線の実現のみでは効果が薄い。古館小学校まで続く構想道路を計画道路に昇格し、全線実現を目指す意思を示すべきではないか。

町長 この構想道路は、紫波町都市計画マスタープランでは、北日詰朝日田線を北進する補助幹線道路の位置付けである。岩手医科大学の移転や周辺環境の変化で国道4号は交通量が増しており、古館地区の交通利便性を図る上で必要性を認識している。しかし、都市計画道路に決定する

と、建築の可否や構造が制限されるため、地域を交えた慎重な検討が必要。整備や計画の時期は、優先する路線の整備状況を見据えながら検討する。

問 道路計画実現までは狭い既存道の利用が急務ではないか。

町長 危険と認識している。歩行空間の設置やカーブを緩和する幅などを行った。今後も状況把握に努め、地域と話し合いながら必要な対策を行う。



このほかの質問

町道の除雪作業



防災

地域特性にあった備えは

いのちと生活を守るために!



ふじわら けいこ 議員 藤原恵子



議員の一般質問・答弁の動画はQRコードから

答 ハード・ソフト両面から備えを進めている

問 ライフラインや公共施設の老朽化に対するメンテナンス状況を把握しているか。

町長 紫波町公共施設等総合管理計画に基づき、施設ごとの劣化状況や更新時期を把握している。また、個別施設計画により修繕や更新、長寿命化に取り組んでいる。さらに、道路、橋梁、上下水道などの社会インフラは、それぞれ長寿命化計画などに基づいて定期点検を行い、計画的な維持管理に努めている。

町長 町は、北上川流域に位置し、洪水浸水想定区域を有し、土砂災害

警戒区域も存在している。浸水、土砂災害のリスクを踏まえた避難体制の強化、避難行動要支援者に対する個別避難計画の作成推進、自主防災組織の活動支援など備えを進めている。

問 今後の防災施設や避難所機能強化の考えは。

町長 緊急防災や減災事業債の期限が延長された。有利な地方債制度を活用し、財政負担の軽減を図りつつ、非常用電源整備など、防災拠点の機能強化を進める。



日頃の備えを十分にしましょう

このほかの質問

企業誘致、立地奨励

子どもたちに楽しく遊んでほしいな



ささき じゅんこ 議員 佐々木純子



議員の一般質問・答弁の動画はQRコードから

答 多様な手段で検討していく

問 基幹産業である農業を軸とした総合的な戦略はどのようなものか。

町長 農業を媒介とした共創出、担い手育成につながるため「食と農の育成学校」の設立準備を令和8年度に着手する予定。

問 幼少期から日常的に運動に親しむ環境整備が必要だが、赤石小学校の校庭の現状と課題、改善策は。

町長 赤石小学校では、8年4月1日の供用開始を目指し、校舎の増築工事を進めている。増築校舎の配置計画の検討段階から、可能な限り校庭が狭くならないよう調整

している。課題として運動会や記録会の練習、休み時間の遊び方にルールを設ける必要がある。校庭使用エリアの設定など、安全な遊び方について指導していく。

問 デマンドバスしわまる号を利用できる地域の拡大はできないか。

町長 町外への拡大は、現時点で検討していない。目的や状況に応じて、多様な交通手段の利用を周知していく。



赤石小学校の校庭



効率的なDX推進を



はしうらいいち 橋浦栄一 議員



議員の一般質問・答弁の動画はQRコードから

DX推進化 町民目線で業務改善しているか

答 皆さんの使いやすさを重視している

問 DX推進基本方針は業務効率化や行政内部の改善にとどまらず、最終的には町民サービスの向上につながることを目的としている。現時点でどのような業務改善が行われたか。

町長 DX推進の基本理念「一人一人がやさしい暮らしを体感できるデジタル紫波町」を掲げ、町民目線でのサービス向上を柱の一つとしている。これまで、便利で使いやすいさを重視した「書かない・迷わない窓口システム」や「キャッシュレス決済」などの事業を導入した。

問 システムの導入や更新、運用には相応の経費を要する。町長にはリーダーシップを発揮して、矢巾町や広域との連携や共同の取り組みも視野に入れながら、効果的・効率的なDX推進やIT活用、AIの利用などを進められないか。

町長 県や盛岡市が主導する共同調達の仕組みが広がっており、コストの削減、業務の効率化として有効であると思う。共同調達の枠組みを研究しながら、時期を逸することなく、効率化が見込められるという利点が見いだせれば、導入を進めていく。



新たなビジネスモデルの創出

このほかの質問
教職員の状況

県央ブロックごみ処理広域化 町民に説明する機会を設けるべきでは

答 情報発信する機会を検討する

問 盛岡広域環境組合では、盛岡広域8市町のごみ焼却施設を1施設に集約し、令和14年度に新しいごみ焼却施設の稼働に向けて進めている。しかし、組合議会2月定例会で8年度予算案が否決となった。町長の認識、今後の事業推進に与える影響の分析は。

町長 誠に遺憾。今後、工程への影響について精査を行う。管理者会議にて、再提案に向けて事業内容の精査や丁寧な説明を進めるよう進言していく。

問 盛岡市で可燃ごみ以外も処理するという誤解も見受けられる。進捗状況、課題、今後

町長 の見通しなどを町民に説明する機会を設ける考えはないか。

町長 ごみ処理施設の広域化は、人口減少社会における廃棄物処理体制の持続可能性を確保するための重要な施策である。町はその必要性は変わらないと認識している。今回の予算案否決という事態を重く受け止め、進捗状況や、広域化の必要性を構成市町と足並みをそろえ、説明会や広報紙などを通じて、より分かりやすく情報発信する機会を検討していく。



このほかの質問

紫波町スポーツ交流施設

むらかみ 村上みさと 議員



議員の一般質問・答弁の動画はQRコードから



メタン発酵バイオガス発電 施設稼働への進捗と留意事項の周知は

四季の感じられる環境を
孫子の世代まで残したい



ほしじょう さとし
北條 聡 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

【答】12月の試運転に向けて周知を図る

問 家庭系生ごみ収集にかかるといわれる町民への理解

令和9年度稼働予定の「紫波町メタン発酵バイオガス発電センター」の進捗状況は。現在は、請負業者と現場確認をしながら、プラントの製作と関連する土木工事を進めている。プラント製作がおおむね完了している。土木等工事は、えこ3センター炭化炉棟内の既設設備撤去、周辺環境整備、設備基礎の施工が完了している。センターの完成は11月末を予定しており、その後「紫波太陽エネルギー株式会社」が12月から9年3月まで試運転と調整を行う予定。

町長 現場確認をしながら、プラントの製作と関連する土木工事を進めている。プラント製作がおおむね完了している。土木等工事は、えこ3センター炭化炉棟内の既設設備撤去、周辺環境整備、設備基礎の施工が完了している。センターの完成は11月末を予定しており、その後「紫波太陽エネルギー株式会社」が12月から9年3月まで試運転と調整を行う予定。

問 令和9年度稼働予定の「紫波町メタン発酵バイオガス発電センター」の進捗状況は。

促進と協力要請をどのように行うのか。
町長 収集エリア、場所、曜日などに変更はない。これまで同様に不適合物が混入しないよう分別してほしい。発酵しにくい大きな種や野菜の芯は分別してもらうことが望ましいため、試運転の開始時期をめぐって広報紙やホームページで周知していく。



建設中の発電センター

このほかの質問

赤石地区防災訓練
財政の見直し

農業支援 産業としてのビジョンは

農業の
これからの考えよう



すずき ひろし
鈴木 博 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

【答】暮らしとなりわいの両立を図る

問 全国には、移住を伴う新規就農者誘致や

地域計画の策定は、担い手確保とどのように連動しているのか。
町長 新規就農者の農地の確保は、農業委員と農地利用最適化推進委員が、就農者の希望する農地の耕作条件に応じて候補地を選定し、農地所有者との橋渡しを行っている。

町長 新規就農者の農地の確保は、農業委員と農地利用最適化推進委員が、就農者の希望する農地の耕作条件に応じて候補地を選定し、農地所有者との橋渡しを行っている。

問 担い手確保とどのように連動しているのか。

育成をJAと連携して取り組んでいる事例がある。そこで町長がリーダーシップをとり、今後の農政を町とJAで定期的に情報交流を図る場を設けてはどうか。
町長 団塊世代の離農が進むことに危機感を覚える。暮らしとなりわいがつながるまちづくりに向けた、さまざまな可能性を検討している。その一つとして、JAとの連携はオガールプロジェクトなどの経験を生かす、協議をして進めていく。



認定農業者の勉強会の様子



女性や若者が戻りたくなる町を



くまがいくこ 熊谷育子 議員



議員の一般質問・答弁の動画はQRコードから

ジェンダーギャップ 解消に向けた取り組みは

答 意識啓発を継続的に行っていく

問 男女共同参画推進計画では、女性の働きがい、働きやすさを推進する環境の整備も取り組むこととしている。ジェン

町長 総合戦略で「若者・女性に選ばれて新しい人の流れが生まれる」を基本目標に掲げている。第2期総合戦略では、どの年度も転入数が転出数を上回る前向きな動きとなったが、10代、20代の女性の転出超過とその後の回復が弱いという課題がある。

問 人口減少の要因として、特に若い女性の流出が挙げられる。若者の県外転出、転入の状況を町はどう分析しているのか。

町長 ジェンダーギャップ解消は、あらゆる分野の課題解決に直結する重要な視点と捉えている。全課による推進会議のほか、町民や民間事業者、地域団体からの委員で構成する推進協議会を設置し、意識啓発に取り組んでいる。

幅広い分野にこの意識が浸透するよう、「知り」「考え」「行動する」ための学びの機会をつくっていく。



男女共同参画推進ワークショップ

このほかの質問
消防団の組織体制

紫波町犯罪被害者等支援条例 町民が理解できるようにすべき

答 支援内容を分かりやすく周知する

問 庁舎内での相談体制をどのよう整備するのか。

町長 施行に向け、町民への周知、庁内体制の整備や関係機関との連携を進めている。広報紙や町ホームページへの掲載、パンフレットの作成配布、公共施設での掲示などにより、条例の趣旨や相談窓口、町で行う支援内容を分かりやすく周知し、啓発していく。

問 紫波町犯罪被害者等支援条例は令和8年4月1日から施行される。町民への周知・啓発をどのように進めていくのか。

町長 警察や犯罪被害者支援センターなどの専門機関と連携する。専門的支援が必要な場合には、速やかに適切な機関へつなぐ体制を整備していく。

問 関係機関との連携をどのように構築していくのか。

町長 容に応じて、福祉・保険・住宅など関係課と連携しながら情報共有を図り、必要な支援につなげる。また、職員が適切に対応できるように、知識の習得と意識の向上に努める。

傷ついた人への支援を期待します



おいかわ 及川ひとみ 議員



議員の一般質問・答弁の動画はQRコードから



庁舎内でも周知しています

このほかの質問
公民館の整備／ごみ処理



シリーズ「議会の見える化」vol.7

第40回町村議会広報全国コンクール

特別奨励賞受賞！



受賞した 212号

受賞した議会
だより212号
をご覧ください。



講評

審査委員長 **芳野 政明** 氏

・広報コンサルタント
・月刊誌「地方議会人」掲載の広報クリニック担当

表紙や各ページ欄外の「耳でも聞ける」のキャッチ、誘導が当議会の姿勢を表しているようです。2～7ページ、中学生議会は質問を終えての感想や事前学習の様子まで丁寧な編集で、読み応えがある特集です。紙面構成は全体的によく練られ高水準。(一部抜粋)

特別奨励賞受賞にあたって

広報広聴常任委員会 委員長 鈴木 博

このたび、「議会だよりしわ」が、全国町村議会議長会主催のコンクールにおいて編集・デザイン部門の特別奨励賞を受賞いたしました。

全国の町村議会広報紙が対象となる中で、本町の議会だよりが高い評価をいただいたことは、大きな誇りであります。

今回の受賞は、各委員の努力はもちろんです。議会活動に真摯に取り組む全議員、取材に丁寧に応じてくださる町民の皆さま、紙面を手に取りご覧くださる皆さまのおかげです。

議会だよりは、町民の皆さまと議会をつなぐ「架け橋」です。これからも、より読みやすく、より分かりやすく、そして親しみやすい広報になるよう努めます。

議会モニター募集します！

議会モニター制度は、議会の傍聴や意見交換会で感想をいただき、議会運営に生かそうとするものです。

町内在住の満18歳以上であれば、応募ができます。

募集期間

令和8年5月15日(金)まで

任期 2年間

募集人数 10人以内

※謝礼はありませんが、意見交換会に出席した際は、交通費相当額を支給します。

応募方法

書面(様式自由)に氏名、生年月日、住所、電話番号、職

業、志望動機を記入し、申し込み先まで郵送かFAXもしくはご持参ください。

申込先 紫波町議会事務局
〒028-3392

紫波町紫波中央駅前2丁目3-1

電話 672-2111(内線3171)

FAX 672-2311





議員が依頼に伺った際は
ご協力をお願いします。

聞かせて まちの声

町内の方々に寄稿していただきました

温もりあるつながり



かりや みねこ
刈屋 峰子さん
(赤石地区)

紫波での生活を始めて17年、日詰商店街で仕事を始めて3年になります。

商店街はかつて北上川舟運の要衝・宿場町として栄えた歴史的な場所なのだそうです。

国指定重要文化財の平井邸をはじめ、どこか懐かしく感じる通りには、さまざまな店が並びます。そんな中で仕事をしていると日々いろいろな出会いがあります。

お客様や生産者の方に声をかけていただけるのも、この仕事をしていたて嬉しいことの一つです。

生産者と消費者をつなぐ大切な場所だと常々感じています。



昔と今をつなぐ商店街

インフラに思う



もりさわ まさあき
森澤 正昭さん
(上平沢地区)

一口にインフラといってもいろいろあるが、上下水道について考えてみた。昨今、ちまたでは管の老朽化により漏水事故が起き、他県では、大変痛ましい事故もあった。

全てに言えることだが、計画的な点検や保全が必要である。もちろん、町でもこれらのことは行われているはずで、あえて聞くまでもないが、このような事故が起きないとも限らない。必要に応じて更新も検討しなければならぬだろう。事故が起きてからでは、復旧に時間がかかり、生活に支障を来すことから、早めの取り組みを願う。



町も調査点検してます

誇れる農業を



ふじた だいすけ
藤田 大輔さん
(赤沢地区)

ブドウがクマとハクビシンに食い荒らされたのを、歯噛みしながら眺めたのが去年のことでした。彼らはよりによって、値段の高い、手のかかった物から美味しそうに食べていくのです。すぐそばが山になっていく我が家は、クマやシカ、ハクビシンといかにすみ分けるかが悩ましいところです。

私が継ぐであろうブドウは、決して生活に必須ではない、いわば嗜好品です。それでも、わざわざ産直で名前を探して買ってくれるお客さんのために、選んでもらえる作物を作っていきたいです。



せんてい 剪定に追われる日々…



国際相互理解のために 紫波町国際交流協会



餅つきで交流

当協会は、町民の国際相互理解と友好親善を図ることを目的として、平成12年に設立されました。

主な活動は、外国人を町に招聘し、農作業体験や小中学校の授業参観を通じて町民とのふれあいを深める「国際ワークキャンプ」事業。県内在

住の外国人を講師に自国の家庭料理を作って試食する「海外食文化体験」事業。町内在住の技能実習生を対象にした「日本語教室」の開催などです。

今回は、令和8年1月17日に開催した日本語教室の中で行われた「餅つき」について紹介します。現在町には、製造業や建設業を中心にフィリピン、ベトナムから50人以上の技能実習生が研修にきています。何かの縁で日本に来たのだから、日本の風習を体験してはどうかという思いから、

正月ということで餅つき体験を実施しました。初めての餅つきに22人の参加者は大いに盛り上がり、つきたての餅をきな粉、あんこ、クルミ、砂糖醬油で食べましたが一番人気は意外にも「きな粉餅」でした。

当協会では今後も季節に合った風習を紹介しながら、少しでも日本を好きになってほしいと思います。日本語教室を行っていき

紫波町国際交流協会

事務局長

高橋 たかはし
松雄 まつお



日本語教室の様子

表紙の写真

未来に羽ばたく子どもたちへ



楽しかったよ～!!



子どもたちが喜ぶといい♡

表紙の写真は3月2日に星山えほんの森保育園で行われた「ひなま んじゅう作り」の様子です。

作り方を教えるのは東部地区更生保護女性の会の皆さんです。同会はボランティアとして明るい社会づくりを目指して、子育て支援活動などを行っています。

「食の匠」の細川玲子ほそかわれいこさんが園児たちの目の前でひなまんじゅうを作ると「すごい!!」と歓声が上がりました。

園児たちの笑顔、人と人のつながりは地域の「宝」と感じる素敵な交流でした。



郷土料理のプレゼント

ペンをおいて

ほぼ毎号トップページの編集を担当しています。あれも伝えたいこれも伝えたいと内容構成するうちにぎゅうぎゅう詰めの紙面になってしまいます。町民の方や議会広報の有識者からも「記事を詰め込みすぎ」とのご指摘をいただいております。

選択の難しさを毎回実感しているところです。「見やすく、伝わりやすく、親しまれる議会広報にする」を肝に銘じ、今後も委員全員で編集作業にまい進してまいります。

全国広報コンクール特別奨励賞受賞は励みになります。

佐藤 光夫

発行・編集責任者

議長 武田 平八

広報広聴常任委員会

委員長 鈴木 博

副委員長 佐々木純子

委員 吉田 和希

村上みさと

佐藤 光夫

橋浦 栄一

及川ひとみ



議会からのお願い 議会だよりの取材のため、議員が写真撮影に伺うことがあります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



植物油インキを使用しています

